

第11回伊達市総合教育会議 会 議 録

1 日 時

開 会 令和5年2月16日(木) 15時00分
閉 会 令和5年2月16日(木) 16時20分

2 場 所

市役所本庁舎 2階会議室A・B

3 出席者氏名

伊達市長	菊 谷 秀 吉
伊達市教育委員会教育長	影 山 吉 則
委 員	早 瀬 芳 宏
委 員	平 田 賢 弘
委 員	岩 本 秀 一
委 員	大 西 稚 子

4 欠席した教育委員の氏名

なし

5 会議に出席した職員の職氏名

市長部局	
企画財政部長	岡 村 崇 央
企画財政課長	水 野 一 英
教育委員会	
教育部長	櫻 井 貴 志
学校教育課長	今 藤 康 之
生涯学習課長	上 山 昭 二
図書館長	阿 部 博
指導室参事	本 所 章 宏
学校教育課企画総務係長	渡 邊 純 一

開 会 （15時00分）

◎水野企画財政課長

本日は、お忙しいところお集りいただき誠にありがとうございます。ただいまから、第11回伊達市総合教育会議を始めさせていただきます。本会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項に基づき協議するものです。それでは、これより先の進行は菊谷市長よりお願いいたします。

◎菊谷市長

それでは、さっそく議事を進めさせていただきます。

本日の会議に付す事件は、報告第1号の1案件です。皆さまからさまざまなご意見を賜りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、報告第1号「今後の部活動のあり方について」を教育部長より説明いたします。

◎櫻井教育部長

それでは、私の方から、今後の伊達市における部活動のあり方について説明させていただきます。

まず、ご説明事項としまして、本日4段階で考えております。生徒数の推移から伊達市の今後という事でまとめてあります。

早速ですが、生徒数ですけれども本市の生徒数はここ20年で約25%減少しております。人数で言いますと、大体200人以上少なくなってきていますので、単純に計算して5クラスから6クラスの減ということになっております。今後、大体7年間でさらに20%以上減少するのではないかと予想しております。これも学級数に響きますので、後ほど説明いたしますけれども、子どもたちの数が少なくなると、学級数が少なくなります。学級数が少なくなると、先生方の数が減ることにつながっていきます。それぞれの中学校で見ると、例えば伊達中学校では、光陵中学校と比べて下がる幅は小さいですが、それでも今後7年間で約15%減ると80名ですから2クラスですので、今現在の学年の通常学級5クラスが4クラスになるのではないかと考えております。続いて光陵中学校ですが、このまま行くと7年間で約35%減るのではないかと予想されておりますので、確実に全学年2クラス、しかも小さい2クラスになっていくのではないかなど。大滝については、来年度に一番生徒数が少なく、先生の数も少なくなることが予想されるのですが、その後は今年度ベースの数で推移していくのではないかと考えております。

今後課題になりそうなこととしていくつかまとめております。当然、部活動数が減少になりますと生徒が活動で選択できる幅が狭まる。また、先生方の数が減りますので、設置できる部活動の種類も少なくなりますし、専門的な指導ができなくなり競技力の低下につながります。特に伊達市の場合、個人種目の人数はそんなに減っていないのですが、野球やサッカー等、人数を要する団体種目の部活動の成立が難しくなってくると考えています。

働き方改革の面で見ますと、部活動の先生は部活動指導に時間を費やして長時間勤務につながっている、それ以外にも競技未経験の先生がいますから、先生の指導による競技力の向上が難しくなる。また、競技未経験の顧問が担当すると保護者の方からクレームを受けることもあります。こういう現状を理解していただくしかないと考えています。

続いて、どのような部活があるかと大まかな人数をまとめています。運動部の加入率は伊達中学校が50.8%、光陵中学校が53.6%、大滝徳舜警学校は少人数ということもありま

すが88.8%となっており、いずれの学校についても過半数を超えております。また、参考に文化部の状況も資料に記載しており、文化部の中では吹奏楽部の加入が多いのですが、これ以外に部活動に所属していないクラブチーム等に所属している生徒もおりますので、割合としてはどこにも所属していない生徒というのは相当少ない状況であります。

国がどのような動きをしてきたかという、小出しにこれからについての情報は流してきておりまして、平成30年には、これからは学校と地域が協力して、スポーツや芸術文化などの環境整備を進めなさいということ、それから必ずしも教師がやる必要がない、将来的には部活動を学校単位から地域単位の取組にしておきなさいということが言われておりました。これは国の方でも少子化というのを見据えて、これから部活動がどんどん小さくなっていくということとを予想していたと思います。令和2年には、より具体的になっていき、働き方改革について報道されていたこともあり、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築しなさいということや、休日の部活動の段階的な地域移行を図っていきなさいということをおっしゃっております。皆様ご存知かもしれませんが、土日の部活動、実際お金は出るのですが、3時間以上やらないとお金は出ない。しかも、3時間以上やって、5時間6時間やったとしても2,700円、時給で考えると900円くらいとなる。こういう現状が今の土日の部活動の現状と言われております。それ以外にもスポーツ審議会の方からは、令和3年11月にスポーツ基本計画で令和5年度以降の休日の部活動を段階的な地域移行につなげなさい、つまり、学校ではなく地域にやってもらいなさいということ、学習指導要領の位置付けもこれから変えていきますということを示しております。運動部活動の地域移行に関する検討会議の中では、課題として、伊達中学校のような大きな学校ではまだ大丈夫ですが、小さい学校ではもう困難であろうということ、ですから各市町村では具体的にスケジュールを決めて、受け皿づくりを進めておきなさいということを示しております。こういったこともありまして、伊達市としては、少しずつ進めさせていただいているところであります。

伊達市の部活動改革の方向性として話し合っているのが、まず部活動を少しずつ教員の職務と切り離していかなければならないのではないかと考えております。そのあとで、新たな運営形態、東京でできることが全て伊達市でもできるとも限りませんし、逆に伊達市でできて東京でできないこともありますので、本市に合ったものを見ていかなければならない。そういうことから受け皿となる総合型地域スポーツクラブの創設を我々としてはまず考えております。これは第1段階としては、義務教育の子どもたちを対象としたスポーツクラブ、それから各年代に広げていければいいのではないかと考えております。先日、スポーツクラブに関係する理事、運営委員等の皆様にお集まりいただいて、伊達スポーツクラブ「藍」というものを立ち上げました。資料のとおり、当面の間はクラブの代表は部活動が中心ですから、中学校の校長先生をお願いしております。顧問やスポーツ推進委員の方にも協力いただきながら、このスポーツクラブを立ち上げたところです。これが子どもたちに希望を取りまして、部活動に加入する全員を受け入れて設置していこうと考えております。当然、保護者会の方にもご協力いただきながら進めていく考えであります。

計画作成と下地作りとしまして、我々が準備しているのが、1つ目として、環境調査を行いました。一番は総合体育館です。総合体育館とスポーツジムの利用状況を調査しまして、使われない時間はもったいないということと、ジムは平日の部活動の時間が空いておりますので、狙い目かなと考えております。また、今後の移動手段に使えるかもしれないということで、登下校バスの乗員数やコースを調査しました。

2つ目は、合同部活動ということを今後視野に入れなければなりません。例えば野球部で言うと、伊達中学校も光陵中学校も自前でチームを作れていますし、力もありますが、それが長く続くわけではないので、どちらかが単独チームが作れなくなった状況で、一つにまとめていく形になると思います。この合同部活動の実験として、4月から総合体育館の火曜日が空いておりましたので、女子バレーの部員を体育館に集め、バレーボール協会にお願いしてアタッカーの育成を中心に練習を深めていくと、これについては協会にもお願いしておりますし、必要な指導者の派遣もお願いしております。

民間活用については、将来的に平日の地域移行を見据えて、例えば、体育施設の指定管理者に平日の指導についてお願いしております。4月から実際に陸上を指導できる方を採用していただいて、その方を伊達市に派遣していただいて平日の陸上部の顧問に協力していただくかなと考えております。それを試行的にやるので、費用対効果を見て、もし、これがいい形であれば、少しずつ広げていきたいと考えております。

施設活用については、今後、空き校舎の活用というのでも考えられるのかなと思っております。教育委員会としては、大きく3つくらいに伊達市を分けて、その地区の高齢者の方にも集まっていただいて身体を動かしてもらえればとも考えております。もし、その場合に、空き校舎の体育館が使えたら、例えば人工芝にするなど、負担がかからない施設を作っていくというのでも一つの考えではないかなと思っております。スポーツジムについては、先ほども申しましたが、空き時間がありますので、指定管理者に協力いただき、空き時間に部活の生徒のケガ防止のための筋トレをできればと考えております。また、これ以外にゆる部活というのでも考えておまして、運動部活動に参加していない特に女子生徒を集めて、ヨガをしたりストレッチ等の軽運動を経験してもらったりというのでも民間の教室を開いている方にお願いして、協力いただくこととなっております。

予算の関係につきましては、市長部局のご理解もあり、来年度予算の内示をいただいております。主には人件費となっておりますが、土日だけでこの金額になりますので、人材確保も含め、全部の移行は難しいと考えております。

今後の実施体制につきましては、これは4月からになりますけれども、学校部活動の平日が管理は中学校、今まで通り教員や外部コーチが指導にあたります、地域部活動については土日がメインですけれども、総合型スポーツクラブの方で管理して、地域指導者これは希望する教員も含むのですが、この教員は教員の身分のままでは指導ができませんので、ボランティア登録をしてもらって、兼職兼業届を出してもらいます。それで、校長の承認を得た先生については完全に土日の指導もしていただくということになります。ほとんどの部活で先生方の協力を得られそうなので、抜けているところについては地域の方もご協力していただくこととなっております。

今後の方向性です。まず、令和5年度すべての運動部活動、それから吹奏楽部で休日の地域部活動の実施をいたします。吹奏楽部の方も何とか目途が立ちましたので、土日の方の指導もできるということです。令和6年度から8年度の間には少しずつ平日の地域部活動の実現に向けて動いていきたいと思っております。最後には完全に学校部活動の地域移行を達成していくのではないかなと思っておりますが、先ほどお話をさせていただいたとおり、全てを地域の方にとというのは難しいので、平日についても先生方に協力していただかなければならないと考えております。

最後に令和5年度の活動イメージとして、実は生徒の事プラス教育委員会としては、教職員の働き方改革も対策を講じなければいけないので、生徒の活動は今まで通り活動させ

てあげようと考えており、平日は月曜～金曜日の間の4日間、これは国の指針で決められております。土日は大会等を除きますが、どちらか1日の活動になります。指導者の方は土日が外部指導者の指導、平日の教職員の指導については、最大で1人3日間となる予定です。平日は4日間ありますが、3日間指導いただいたら必ず1日休んでいただいて、休んだところは2人目の指導者の方に必ず見てもらうので、子どもたちの活動には影響を及ぼさないように我々としては準備を進めさせていただいているところです。

説明は以上でございます。

◎菊谷市長

ただいま説明がありましたが、私の方からも一言付け加えさせていただくと、これは伊達市だけの話をしていますけれども、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町の3町の話です。この場では拡大した議論はできませんけれども、ぜひ次の段階で教育委員会の方でこの枠組みで3町でやっていかないと、地域として考えた時に、少子化は大変な影響なので、連携してやっていただきたいと思います。ご質問、ご意見はございませんか。

◎早瀬委員

伊達は剣道が強いイメージがあるのですが、武道館でやっている柔道、剣道は地域移行の形にはならないのでしょうか。

◎影山教育長

基本的には少年団の活動でやっていて、学校で指導できる先生も少なくなっていますので、すでに中学生や高校生が入って活動している状況です。

◎菊谷市長

剣道は一貫してやっていますが、そうでないものは、少年団、中学校、高校となる。個人的に思ったのは、小学校から高校まで一貫して指導できるような体制が将来的にでもできればと思っています。

◎平田委員

1点目は報償費の額も含め、指導者が集まるのかということ。2点目は用具代や送迎等親の負担について。3点目は指導者が変わった時に、子どもたちの気持ちはどうなのかなと思っています。

◎櫻井教育部長

指導者の確保については、全ての連盟の方に伺って確保はしており、報償費の額についても了承いただいております。2点目の親の負担については、体育文化費で今までも7千円～1万円くらいの家庭の負担はありましたので、それを超えないようにできるところで支援していきたいと考えています。3点目の子どもの気持ちについては、おっしゃる通り指導者が変わると受け取り方も変わってきますので、今、ガイドブックを作っています、それを指導者全員に配ろうと思っています、学校の先生と地域の指導者の情報が共有できるような取組をきちんとやってケアの方も行っていきたいと考えております。

◎平田委員

どこかの段階で構いませんので、子どもたちの意見を吸い上げられるような場面を作っていたいただければと思います。

◎菊谷市長

聞いていて思いましたが、その指導者が本当に正しいかどうかというのは難しいと思いますので、指導者を評価する仕組みも必要だと思います。

◎影山教育長

今おっしゃられた問題は非常に大きい問題と考えています。今、部長から説明があったように、伊達市なりのやり方として、令和5年度にスタートは切れると思いますが、実際に私も部活に関わってきましたが、学校で抱え込んでやっても教員によっては問題が大きくて、校長の時も放課後の仕事のひとつとして部活を見てまわるということ、やはり校長が見てまわることによって緊張感が生まれたりしますが、それでも問題が起きたりというのをニュースで見ます。それに今度民間が加わってきて、民間の方がダメということではなく、学校でやっていた時は教員という身分があって校長のコントロールの中でやっていたものが、地域部活動になると地域の方の善意に期待するしかないなので、大きなポイントになると考えています。

◎菊谷市長

指導方法についても、指導者がただやりなさいとするのではなく、練習の目的を示したり、動画を活用したり、科学的な根拠や客観的な目をもってというやり方もあると思います。

◎岩本委員

指導者の問題で言うと、責任の所在をどこにするかということがあります。何か問題があった時に誰が責任を取るのかというのが分かりにくくなるのが心配かなと思います。例えば、週末は親が見に行ってもいい等、いろいろな目が入っていいのかなと思います。

また、別の観点では、部活動は子どもたちの将来を決めるすごく大事な要素の一つで、これがしたいからこの学校に行くなどあるわけですから、学校部活動と地域部活動の連携を取るとなっても、目的が一緒だったら意識が共通になると思いますが、中体連だと学校ごとになってしまう。そうするとまとまりにくいのかなと思いますが、今後の見通しはどうなっているのでしょうか。

◎櫻井教育部長

しばらく単独の中学校での参加が可能なので、今まで通り中体連に出られると考えております。もう一つ来年度からやるのが、拠点校方式で、光陵中学校の生徒がバスケをやりたいと言っても、光陵中学校では今までバスケ部がありませんでした。しかし、伊達中学校で受け入れてくれることになったので、光陵中学校の子が放課後に伊達中学校に行き、伊達中学校の部活に参加できる。大会も合同チームという形で中体連に出ます。ですから、そのような形で一つの目標にできるのではないかと思います。また、チームが存続できなくなったら一つになりますので、伊達・光陵という形で出れば良いと思いますし、しばらくこのような形で様子を見ていこうかなと思います。さらに、合同チームでの参加が認められる、例えば伊達ベースボールクラブというチームが大会に出られるようになれば、全ての地域の生徒さんにクラブに参加してもらって、中体連に代わる大会に出させてあげればと考えておりますし、時代ごとに大会への出方というのは変わっていくと思います。

◎岩本委員

それぞれの学校が違って平日は練習が違ってても、目的は一つにしてできるような準備はできているし、対応も可能ということですね。

◎櫻井教育部長

来年1年拠点校方式でやってみて、実際それで大丈夫なのかということと、平日の部活も拠点校方式の場合練習に来てもらいます。

◎岩本委員

移動手段はどうするのでしょうか。

◎櫻井教育部長

移動は保護者にお願いをします。

◎影山教育長

高体連の方はすでに進んでいるので、中体連は自ずと今のルールは変えざるを得ないと思います。

◎櫻井教育部長

実際、伊達中学校サッカー部は豊浦と合同で活動をしておりますし、それで中体連に出しております。

◎菊谷市長

野球やサッカーの冬の練習場所が無い気がします。また、廃校舎についてですが、各地区に避難所が無いという問題があります。学校の統廃合が進んでいくのは良いのですが、避難所を確保していくという問題もあります。かといって、使っていないと校舎の傷みもすごい。ですので、統合して使えるような校舎は部活の拠点施設として位置づけしつつ、避難と学校の廃校舎を結び付け再整備するという事も無いと、地域の人も避難所が無い等、不安になっていくのではないかと思うので、どうするのか真剣に考えていかなければいけないと思います。

伊達からスターやオリンピック選手が出て、伊達というまちを広められるように、また、地域を誇りとしてもてるような環境を作ってあげるのがすごく大事だと思います

◎大西委員

先程の岩本委員の話が同じように気になっていて、今までは伊達中学校、光陵中学校とそれぞれのチームで大会に出ていると思いますが、部活動のあり方が変わっていく中で人数が多くなる場合と全く人数にならない場合が出てくる。多くなった場合、人数的に増える分、出場機会が限られる等の問題もあると思います、それについてはどのようにしていくのでしょうか。

◎櫻井教育部長

基本的にはチームが存続できる間は単独での出場となります。選手の皆さんや指導者の方と相談しながら、統合する時期を決めていきたいと思いますが、その判断については現場にまかせたいと考えていますし、その時に1番は子どもたちの気持ちを尊重できればと思います。

◎影山教育長

冒頭で市長がおっしゃっていた1市3町の関係ですが、先日も1市3町の教育長で集まって部活動地域移行の情報交換をしました。各々、町長の意向もあると思いますので、今後具体的に検討していかなければならないというのと、3町側からは伊達市に協力してもらいたいという思いもあります。生徒の移動の問題等、現実的な問題はいろいろありますが、伊達市もこれから子どもの数が減っていく中で、西胆振で一つの意識を持つような感じにしていかなければならないと考えますし、転換期と思っていますので、進めていきたいと考えています。

◎菊谷市長

教育関係等、地域にいて損をすることがあると思います。なので、できるだけ1市3町が連携しながら、コスト縮減や、スポーツ・教育機関についてお互いに補完しあってやっていけるように進めていただければと思います。

◎早瀬委員

ボランティアでやる気のある人たちが地域で子どもたちを教えている。これから賃金が発生するというので、その方たちがやる気を無くすことがないようにバランスを取ってやっていただきたい。

◎櫻井教育部長

指導者の方全員分とはいきませんが、土日は確実に2人分時間数で報酬が出ます。また、個人で受け取るか団体に受け取るかという問題もありますので、そこは調整いただくようにしております。

◎菊谷市長

他にご質問、ご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎菊谷市長

それでは、報告第1号につきましては、報告として取扱いたいと思います。

以上で、本日の日程はすべて終了いたします。

◎水野企画財政課長

これもちまして、第11回伊達市総合教育会議を閉会いたします。

閉 会 （16時20分）